

『初めて知ったユネスコ活動』

富岡市立西小学校 6年 三宅 陽夏

私は、今までユネスコというものを全然知りませんでした。ユネスコ世界遺産とか、ユネスコ合唱団などという言葉を知ったことがあるくらいで気にもしていませんでした。でも、この作文を書くために調べてみて、いろいろなことがわかり、『ユネスコ』ってすごいんだな、世界を救うような大事な組織なんだなと初めて知りました。

ユネスコとは、英語の国連教育科学機関の頭文字 UNESCO をとった国際連合の機関の一つだそうです。

その目的は、ユネスコ憲章の前文に書かれている「戦争は人の心の中で生まれるものだから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない。」という理念にもとづいて、教育、科学、文化などの分野から、心の平和を築き、争いをなくすことです。

その主な活動は二つあり、一つ目が『世界寺子屋運動』とよばれるものです。

世界には、貧しさや、戦争などで学校に行けず、読み書きや計算もできないため、いい仕事につけない人たちがいます。その人たちに、勉強する場を与えたり職業訓練をしてあげたりして支援する活動です。

私は、学校は行きたくなくても行かなくてはならない所だと思っていたので、学校に行きたくても行けない人が、世界

にたくさんいることにおどろきました。遠い所まで水くみに行ったり、弟や妹の世話をしたりで勉強どころではない子どもたち。学校自体が無く、紙もえん筆もない貧しい地域。戦争で、生きていくのがやっとの子どもたち。私と同じ子どもなのに、かわいそうだな、私はめぐまれているんだなと思いました。そういう大変な人たちを助けたり、学校を造ったりするユネスコの活動は、とても大切だと思います。私たちも何かできる手伝いがあったら、してあげたいです。

二つ目の活動は『世界遺産活動』です。

世界遺産とは、地球の生成と人類の歴史によって生み出され、現在に引きつがれてきた宝物。未来にのこしていくべき、貴重な遺産です。

富岡製糸場も、そんな重要な遺産だったのかとあらためて思いました。だから、観光名所にするだけでなく、どういう所が大事で、価値があるのかを私たちもよく知って、それを100年後、200年後までも大切に残していかななくてはならないと思いました。

私は、ユネスコとは、人類みな兄弟といわれるように、世界の人々が仲良く助け合い、大切なものをこわさず守っていく組織だと思います。私も、その考えには賛成です。私に何ができるかわかりませんが、お小づかいを募金したりしたいです。また、心に平和のとりでを築くために大切なのは、みんながたがいに思いやることだと思います。私も、思いやりを持ちたいと思います。

『ユネスコを考えてみて』

富岡市立額部小学校 6年 石関 悠希

ユネスコ活動に関する作文を書くために、インターネットで活動内容を調べてみました。「戦争は人の心の中で生まれるものであるから、人の心の中に平和のとりでを築かなければならない」とありました。

そこで、ぼくは「心の中の平和」を考えてみました。

ぼくの心の中が、イライラしないで、楽しい気分になれる時は、友達と仲良く遊んでいる時、おこづかいをもらった時、美味しい物を食べている時、問題がスラスラとけて勉強が楽しい時などです。

反対にイライラする時は、友達とケンカした時、解らない問題を解いている時、好きなお菓子を食べちゃダメと言われた時です。

心の中が平和な時は自分の事だけでなく、人の気持ちも考えてあげる事ができます。優しい気持ちで家族や友達と接する事ができるので、自然と相手も優しくなります。

イライラしている時は、他の人のせいにしたり相手を責めるような気持ちになります。そうすると、相手もイライラして怒らせてしまったりします。

世界の人々の心の平和は大きすぎて、難しいけれど、ぼくの住んでいる小さな世界の平和は、ぼくの行動や言葉で守る事ができます。

今回、「心の中の平和」を考える事で、相手を思いやるためには、自分の心の中に余裕がなくては難しく、心の中の余裕を作るためには、ぼく自身が平和でなくてはならないと思いました。

ユネスコを勉強した中で、ぼくが取り組める事は、勉強をして知識を高める事、健康な体を作る事、色々な地域の活動に参加する事で地域活動を学ぶ事だと考えました。

そうした、1人の心の平和が、近くの人々の心の中の平和につながり、どんどん大きくなって世界の平和につながるのだと考えます。

『語り合える幸せ』

富岡市立西中学校 3年 岡部 桜子

「戦争のドラマやニュースは可哀想になるから見られないの。」

祖母はそう言い、いつもチャンネルを変える。

一方で私は、1冊の本、1本の映画がきっかけで、広島があれからどう変わったのか自分の目で見てみたいとずっと思っていた。

この夏休み、それが実現した。

8月8日は、立っているだけで背中や首に汗が流れた。

74年前。原爆投下から2日後の広島は、もっともっと暑かったに違いない。そんなことを考えながら、人々が飛び込んだ元安川、原爆ドーム、路面電車、平和記念公園を見渡した。実際にこの場所でどんな光景が広がっていて、どんな音が、どんな声が聞こえていたのだろう。想像すると胸が張り裂けそうだった。

資料館では、想像を越えた現実がたくさん並んでいた。何が起こったのかわからず亡くなった人、助かったのに放射能の後遺症に苦しみ数年後に亡くなった人、瓦礫の下敷きになった学生を助けられなかったことに苦しみ続けた人、祖母が言うように、確かに可哀想で見られないものばかりだった。

ふと、私の前の方を見学していた外国の若い男の人が、鼻をすすっているのに気がついた。大粒の涙をハンカチで拭き

ながら英語の説明文を一生懸命読んでいた。時々立ち止まっては深いため息をついていた。結局、私は資料館の出口までその人の姿を視界に、そして鼻をすする音を聞きながら一緒に見学をした。

出口で家族と合流した外国の人は、泣きながら家族と何かを語り合っていた。それを見た時、私も今日見たものを祖母と語り合いたいと思った。祖母は私にいつも、自分には思い付かないような意見を提案してくれたり、アドバイスをしてくれたりする。その祖母と平和について、話し合えないなんてとても悔しい。

私は、祖母に会ったらまずこう伝えようと思う。

「旅先に日本を選んで、広島を選んで、資料館に足を運んで、真剣に見ていた外国の人がいたよ。ずっと泣いていたよ。平和について思うこと、ひとつのものを見て感じることは、住んでいる国が違ってもみんな同じなんだね。」

祖母は何と言うだろう。どんな話をしてくれるだろう。

もしも、私の話を聞いて広島に行ってみたいと言ったら、その時は私が案内したい。見違えた広島を。今度は平和についての祖母の意見を聞きながら。

『世界遺産を伝える』

富岡市立北中学校 2年 田嶋 珠莉

皆さんは、世界遺産と言えは何を思い浮かべますか。日本には19件の文化遺産と4件の自然遺産の計23件あるといわれています。私は自分の地元にある富岡製糸場や、家族旅行で行った広島原爆ドームなどを思い浮かべます。

しかし、この2つの世界遺産はそれぞれ意味が違います。そもそも世界遺産とはどのようなものなのでしょうか。調べてみたところ、『1972年ユネスコ総会で採択された「世界の文化遺産及び自然保護遺産に関する条約」に基づいている』ということがわかりました。

二つとも普遍的な価値を有する記念物や建築物をさす文化遺産ですが、広島原爆ドームは負の遺産と言われているようです。

負の遺産とは、世界遺産のうち、人類が犯した悲惨な出来事を二度と起こさないように、と伝えるための日本国内での用語です。

この負の遺産には、ポーランドのアウシュビッツ強制収容所などがあり、日本では原爆ドームのみなのです。負の世界遺産が日本にあるのは本当に貴重なものだと思います。そして、二度とこのようなことを起こさないように、という戒めを、この原爆ドーム自体が私たちに語っているように見えました。外国人の方も訪れることが多くなった今、たくさん

の方々に知ってもらいたいと思いました。

私は、世界遺産は過去の人からの伝言が込められていたりするので、特に負の世界遺産は、昔の人たちからの思いなどを、これからも後世に伝え大切にしなければいけないものだと考えます。負の世界遺産は、私たち現代の人が分からないことを、明確におしえてくれるのでいいことだと思いますが、悲惨なことがこれからはもう起きてほしくないと思う気持ちの方が大きいです。

これから世界遺産について、もっと詳しくなれるように、自分で調べたり実際に訪れたりしていきたいです。そして、分かったことをたくさんの人に知ってもらえるよう、積極的に色々な活動に取り組んでいきたいと思っています。